

# 伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第 25 主日礼拝のしおり

## 2021 年 11 月 14 日

### 前奏

#### 招きのことば : 詩編 16 編 7-11 節

わたしは主をたたえます

主はわたしの思いを励まし わたしの心を夜ごと諭してくださいませ

わたしは絶えず主に相對しています。主は右にいまし わたしは揺らぐことはありません

わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います

あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず  
命の道を教えてくださいませ

わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い 右の御手から永遠の喜びをいただきます

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいませました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちの人生には 喜びのときがあり、悲しみのときがあり、勇気のときがあり、不安のときがあります。きのうも 今日も いつまでも変わらない、とおっしゃってくださるイエス様は、かわらない確かな約束をもって 私たちにいつも慰めと希望を与えてくださいます。どうぞ 自分の気持ちにではなく、あなたのみ言葉の約束に土台を置かせてください。ここから私たちの新しい一週歩みが始まります。日々の暮らしの中で、あなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、更に隣人の力になれるように鍛えてくださいます。あなたに信頼する一週間を送らせてくださいます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：ヘブル人への手紙 10章 11-14, 19-25 節

すべての祭司は、毎日礼拝を献げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。しかしキリストは、罪のために唯一のいけにえを献げて、永遠に神の右の座に着き、その後は、敵どもが御自分の足台となってしまうまで、待ち続けておられるのです。なぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人たちを永遠に完全な者となさったからです。… それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。約束してくださったのは真実な方なのですから、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。互いに愛と善行に励むように心がけ、ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。

## 福音書朗読：マルコによる福音書 13章 1-8 節

イエスが神殿の境内を出て行かれるとき、弟子の一人が言った。「先生、御覧ください。なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう。」イエスは言われた。「これらの大きな建物を見ているのか。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」イエスがオリーブ山で神殿の方を向いて座っておられると、ペトロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかに尋

ねた。「おっしゃってください。そのことはいつ起こるのですか。また、そのことがすべて実現するときには、どんな徴(しるし)があるのですか。」イエスは話し始められた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞いても、慌(あわ)ててはいけなない。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、飢饉が起こる。これらは産みの苦しみの始まりである。

### 讚美歌 501 番

1. 生命の み言葉 たえにくすし、見えざる御神の むねを示し、仕えまつる 道を教(おし)う  
※ 生命のみことば たえなるかな、いのちの御言葉 くすしかな
2. 主イエスの御言葉 いと慕わし、普く響きて 世のちまたに 悩む子らを天(あめ)に招く ※
3. 嬉しき訪れ たえずきこえ、赦しと和らぎ たまう神の 深き恵み 世に現わる ※ **アーメン**

### 説教：「最後まで耐え忍ぶもの」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今朝は聖霊降臨後第25主日の礼拝です。私たちは礼拝のたびに、一年の前半はイエス様のご生涯の流れを覚え、後半はイエス様の教えられたことを覚えてみ言葉を聞いています。一年は52週間ありますから、だいたい26週間ずつになっています。来週が聖霊降臨後第26主日、つまり後半の最後の主日となります。本日与えられている聖書の箇所は、教会の暦の最終主日に向けて、世のおわりの様子をイエス様が教えておられるところが開かれました。世の終わりのありさまは、少しただごとではないおそろしい感じがしました。けれども、よく読んでみると、それは希望の言葉でもありました。と一緒にイエス様の言葉に聞いていきましょう。

さて、ここまで日曜日ごとに、イエス様とお弟子たちの、エルサレムへの道のりのできごとやお話を覚えてきましたね。イエス様はエルサレムに入場されました。そして、最後の一週間を過ごされています。エルサレムには大きな立派な神殿がありました。人々は方々からここで礼拝するために、エルサレムに来ていました。

イエス様とお弟子たちも神殿の境内にいました。ひとりの弟子がはれやかなすがすがしい気持ちでエルサレムに来たことを喜んで、イエス様に「ご覧ください、なんとすばらしい神殿でしょう」と話しました。いなかから旅をしてきたので、ちょっとおのぼりさん気分も入っていたのかもしれませんが。きれいな石でつくられていますね、すばらしい建物ですね、と感心しています。

すると、イエス様はエルサレムに来て、大きな神殿を見て圧倒されているのか、この建物は石で組まれてできているが、やがて石がばらばらにくずされて、ひとつの石がもうひとつの石の上に残ることがないほどになる、と言われました。

北のガリラヤ湖という湖よりまだ北の町、ピリポ・カイザリヤで、お弟子たちの「イエス様、あなたは救い主です」という信仰告白を聞いてから、イエス様はお弟子たちを連れて南へ250kmほどの道のりを歩いて旅をしてきました。エルサレムへの旅の目的は、救い主として人々の罪を負って十字架について殺されるため、そして三日目によみがえってくださるためでした。イエス様のこの世でのご生涯の最後の旅だったのです。イエス様は、よみがえったあと、天にのぼられます。そして、やがて再び世の終わりに世をさばき私たちを迎えるために来てくださいます。この旅は、救い主イエス様が私たちを救うために歩いてくださった旅でした。

場所はかわってその後のことです。エルサレムの町は北から南にゆるやかな傾斜のある丘のいただきにあります。東側と南側には谷があります。東側の谷をこえるとオリーブ山とよばれる小高い丘があり、そこから西を見ると目の前にエルサレムの町の全景がひろがっています。町の手前側にある神殿が一望できます。

さきほどのイエス様のことが気になっていたのでしょうか。美しい石を組み合わせてつくった巨大な神殿をながめて、ここで神様を礼拝するのだ、とうっとりしていたときに、イエス様が、この神殿がこなごなになるときが来る、とおっしゃったのです。弟子たちの頭は疑問でいっぱいになっていました。それで、ペテロとヤコブとヨハネとアンデレという弟子たちが、オリーブ山から神殿の方をみわたしながら密かにイエス様に尋ねました。エルサレムの神殿がこなごなになる、それは何のことでしょうか、どういう意味でしょうか、それはいつ起こるのでしょうか、どんな前兆があるのでしょうか。

イエス様のゆっくりとお答えになりました。「わたしの名を名乗る者が多く出てくる。まどわされないようにしなさい。戦争や地震や飢饉がおこる。しかし、あわてたり、恐れたりしないようにしなさい。」さきほどは8節まで読んでいただきましたが、少し先の10節でイエス様は、また、こうおっしゃっています。「しかし、まず、福音があらゆる民に宣べ伝えらねばならない」すなわち、いろいろなことが起こる。けれどもその中でイエス様の福音が宣べ伝えられる、という約束ですね。

私たちはイエス様の言葉を今聞いています。イエス様はこの世には終わりがある、と言われていて、また、私たちの周りにはまじめなのに私たちをだまそうとして、イエス様ではない救いに引っ張っていかうとする人々がたくさんいるといわれます。また、次から次へと、戦いやいざこざで人と人とが傷つけあい、地震や飢饉などの思いがけない大きな苦しみがいっぺんに襲ってくるかわからない不安にさいなまれます。自分の身に、また大切な方々の身に、病いや苦しみがのぞむのです。イエス様の言われていることは今日の私たちの現実ですね。

人々は自分の勘と確率を信頼して生きている感じがします。何が正しいかわからない、誰を信用していいかわからない、だから自分の勘を頼りに、信頼できそうなところに心を寄せます。同じことをしていても悪いことが起こる場合があるけれど、たぶん確率的には自分には起こらないだろう、と自分を慰めます。しかし、これまでの人生を振り返ってみたらそれでやってこれたということであっても、今後もずっと自分が守られるという保証はそこにはありません。大丈夫だ、と自信があっても、どこかに不安があるものです。

弟子たちはイエス様を救い主と告白してきました。しかしそれは当時のローマ帝国という強大な国の支配下に甘んじて属国とされていたイスラエルの人々が望む救い主でした。イスラエルの国を導いて、これまで支配されていた形勢を逆転して、世界の国を統治する立派な自由の民として君臨する、かつてのダビデ王のような救い主を求めていました。その昔、ダビデ王が最初に建てたエルサレムの神殿を見ながら、そんなことをぼんやり期待していたのでしょうか。

しかし、ダビデ王のような救い主がイスラエルの人々に自由と尊厳を与えても、それでも人生の不安や苦しみからは逃れることができません。移り変わっていくこの世の中で、かわらない平安や喜びはダビデ王のような救い主には与えることができません。

これまでイエス様は、弟子たちの信仰告白を修正してこられました。イエス様は救い主として、ダビデのような王としての救いではなく、罪と死と悪魔の力から私たちを解放する救い主です。それは人の世の支配ではなく、神様の与えてくださるしかできない、私たちの神様の前の計り知れない罪を、神様がイエス様によって確かに赦してくださる約束です。イエス様は私たちの願いを超えた、さらに素晴らしい救い主として来てくださいました。罪の裁きが心配だからばちがあたるのではないか、と不安になります。死が恐ろしいから、安心できるものを手当たり次第に探します。悪魔の誘惑の前にもろいから、巧みな言い訳をしながら生きています。イエス様はこれらの力から、ご自身の十字架の死によってあなたを、そして私たちを自由にしてくださる救い主です。弟子たちにはまだわからなかったのですが、イエス様がエルサレムにはるばる旅をしてこられたのは、私たちすべての罪をせおって十字架にかかって、私たちに神様の罪の赦しを与えてくださるためでした。

イエス様は福音があらゆる民に宣べ伝えられねばならない、と言われました。イエス様は私たちに罪の赦しと新しいいのちを与えてくださる、ということが福音です。そして、私たちは今日もその福音にあずかっています。イエス様のゆえに、父と子と聖霊の神様がそのお名前にかけてあなたの罪を赦してくださいます。

赦しのあるところに命があります。あなたはイエス様のよみがえりのいのちにあずかって、この一週間も安らかに、希望をもって歩みます。いろんな苦しみを経験します。そこで自分を支える軸のない不安定な毎日を送るではありません。人の目や人の評判だけを気にする当たり

障りのない毎日ではありません。自分の中に、何がしたいか、何ができるかと問い続ける果てしない自分探しの欲求不満に浮き沈みする毎日でもありません。

神様はあなたを苦しみの中で支えてくださいます。本当に頼りになる方として、あなたを約束の通り守り導いてくださいます。何があってもイエス様に罪赦されていますから、それは罰ではなくて神様の愛の鍛錬です。我が子としてあなたを練り鍛え、イエス様だけに純粹により頼む信仰をあなたの内につくりあげてくださいます。御手の中にあることで安心してください。

神様はあなたを用いてくださいます。苦しみの中にあっても希望を与えてくださり、あなたが置かれているところで、そのご家庭で、その社会で、そして教会で、あなたが愛に生きて人を生かすようにさせていただきます。私たちは今週、どんな小さなことにも神様からの愛と希望をもって心をこめて人の幸せをつくるために、感謝と熱意をもって生きていきましょう。

人の見返りを期待して、いい気分になったり、おちこんだりしません。神様が与えてくださっている使命を生きること自体が神様から与えていただいた特権であり、足りない自分だけけれど神様が用いてくださるのだから、この人々とともに生きることができるのだから、更によりよくお仕えできるように、人の立場にたって創意工夫して成長します。人を苦しめる社会の不正があったら、正します。災害などの準備が足りなかったらともに整えます。そのような新しい充実した日々を与えてくださる救い主のイエス様を人々がまだご存じないことはもったいないことです。罪の赦しにあずかっていのちあふれて生きる喜びをもって、福音をいつも伝えていきます。

そして、やがてイエス様が迎えに来てくださいます。そのときは大きな建物も私たちを助けることはできません。どんな立派な王国も、最後の日の神様の裁きから私たちを自由にすることはできません。神様の公平で正しい裁きをすべての人が受ける日が来ます。そのとき、私たちに既にいただいているイエス様の罪の赦しをあらためて感謝するでしょう。福音にあずかっていたことを感謝するでしょう。新しいいのちに生きてくることができたことを感謝するでしょう。イエス様は私たちのためにエルサレムに旅をされました。それは私たちの罪を赦すために十字架にかかり、私たちに神様の子どもとして生きる永遠のいのちを与えてくださるためでした。一週間の歩みがイエス様にある信仰によって愛と希望に満ちたものでありますように、お互いに祈ってまいりましょう。

**しかし、まず、福音があらゆる民に宣べ伝えられねばならない。マルコ 13 : 10**

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

### **讚美歌 453 番 献金 献金感謝の祈り**

1. 聞けや、愛の言葉を 諸国人(もろくにびと)らの

罪科(つみとが)を除く 主の御言葉を、主の御言葉を

※やがて時は来たらん 神の御光(みひかり)の 普く世を照らす 朝(あした)は来たらん

2. 見よや、救いの君を 世のため悩みて

贖(あがな)いの道を 開きしイエスを 開きしイエスを ※

3. 歌え、声を合わせて 天地(あめつち)と共に 喜びに満つる 栄えの歌を 栄えの歌を ※  
アーメン

**主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

**頌栄：讚美歌 541 番**

父、御子、御霊の おお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

**祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

**後奏**